



W コマンド

この章では、W で始まる Cisco NX-OS ユニキャスト ルーティング コマンドについて説明します。

weighting

Gateway Load Balancing Protocol (GLBP) ゲートウェイの初期重み値を指定するには、**weighting** コマンドを使用します。デフォルト値に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

weighting maximum [lower lower] [upper upper]

no weighting maximum [lower lower] [upper upper]

シンタックスの説明

<i>maximum</i>	最大重み値。範囲は 1 ~ 254 です。デフォルト値は 100 です。
<i>lower lower</i>	(任意) 下限重み値を指定します。範囲は 1 ~ 指定された最大重み値の間です。デフォルト値は 1 です。
<i>upper upper</i>	(任意) 上限重み値を指定します。範囲は下限重み値から最大重み値までの間です。デフォルト値は指定された最大重み値です。

デフォルト

デフォルトのゲートウェイ重み値は 100 で、デフォルトの下限重み値は 1 です。

コマンド モード

GLBP コンフィギュレーション

サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者
VDC 管理者

コマンドの履歴

リリース	変更内容
4.0(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

仮想ゲートウェイの重み値は、ゲートウェイの転送能力の指標です。ルータ上の追跡対象インターフェイスに障害が発生し、そのルータの重み値が最大値から下限しきい値を下回るまで減ると、ゲートウェイは仮想フォワーダとしての役割を放棄します。ゲートウェイの重み値が上限しきい値を上回るまで増えると、ゲートウェイは仮想フォワーダのアクティブな役割を再開できます。

インターフェイスを追跡するには、**glbp weighting track** コマンドおよび **track** コマンドを使用します。インターフェイスがダウンすると、GLBP はそのゲートウェイの重みを指定された値だけ減らします。

このコマンドにはライセンスは必要ありません。

例

次に、GLBP グループ 10 のゲートウェイの重みを設定する例を示します。

```
switch(config)# interface ethernet 1/1
switch(config-if)# glbp 10
switch(config-glbp)# weighting 110 lower 95 upper 105
```

関連コマンド

コマンド	説明
glbp	GLBP コンフィギュレーション モードに入って、GLBP グループを作成します。
glbp weighting track	GLBP ゲートウェイの重みに影響する追跡対象オブジェクトを指定します。
track	追跡対象インターフェイスを設定します。

weighting track

追跡対象オブジェクトのアベイラビリティに基づいて Gateway Load Balancing Protocol (GLBP) の重みが増減するように追跡対象オブジェクトを指定するには、**weighting track** コマンドを指定します。トラッキングを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

weighting track *object-number* [**decrement value**]

no weighting track *object-number* [**decrement value**]

シンタックスの説明

<i>object-number</i>	追跡対象オブジェクトを表すオブジェクト番号を指定します。追跡対象オブジェクトを設定するには、 track コマンドを使用します。範囲は 1 ~ 500 です。
decrement value	(任意) インターフェイスがダウン (または復旧) したときにルータの GLBP の重みを減らす (または増やす) 量を指定します。範囲は 1 ~ 255 です。デフォルトは 10 です。

デフォルト

デフォルトの減少値は 10 です。

コマンド モード

GLBP コンフィギュレーション

サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者
VDC 管理者

コマンドの履歴

リリース	変更内容
4.0(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

weighting track コマンドを使用して、GLBP ゲートウェイの重みとゲートウェイ インターフェイスのアベイラビリティを関連付けます。このコマンドは、GLBP 用に設定されていないインターフェイスを追跡するのに有効です。たとえば、ゲートウェイと IP ネットワークを接続しているインターフェイスをトラッキングできます。

追跡対象インターフェイスがダウンすると、GLBP ゲートウェイの重みは設定された減分值だけ減りません。GLBP グループごとに個別に一連のインターフェイスを追跡できます。

追跡対象インターフェイスが復旧すると、GLBP は重みを同量だけ増やします。

複数の追跡対象インターフェイスがダウンすると、それぞれに設定されている重みの減分值が累計されます。

追跡したいインターフェイスを設定するには、それぞれに **track** コマンドを使用します。

このコマンドにはライセンスは必要ありません。

例

この例では、イーサネット インターフェイス 1/1 で、番号の 1 と 2 で表される 2 つのインターフェイスを追跡することを示します。インターフェイス 1 がダウンすると、GLBP ゲートウェイ重み付けがデフォルト値の 10 だけ減算されます。インターフェイス 2 がダウンすると、GLBP ゲートウェイ重み付けが 5 だけ減算されます。

```
switch(config)# interface fastethernet 0/0
switch(config-if)# glbp 10
switch(config-glbp)# weighting track 1
switch(config-glbp)# weighting track 2 decrement 5
```

関連コマンド

コマンド	説明
glbp	GLBP コンフィギュレーションモードに入って、GLBP グループを作成します。
weighting	GLBP ゲートウェイの初期重み値を指定します。
track	追跡対象インターフェイスを設定します。

wide-metric-only

ワイドメトリックリンクのみをアダバタイズするには、**wide-metric-only** コンフィギュレーションモードコマンドを使用します。制限を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

wide-metric-only

no wide-metric-only

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドのデフォルト なし

コマンドモード ルータ コンフィギュレーション
VRF コンフィギュレーション

サポートされるユーザロール ネットワーク管理者
VDC 管理者

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン メトリック値はリンクに割り当てられ、リンクと宛先ポイントの間のパス コストの計算に使用されます。メトリックの形式は次のとおりです。

- ワイドメトリック : 1 ~ 16777214 のメトリック値の範囲
- ナローメトリック : 1 ~ 63 のメトリック値の範囲

wide-metric-only コマンドは、ワイドメトリック値が割り当てられているリンクのみをアダバタイズします。

例 次に、ワイドメトリックリンクのみをアダバタイズする例を示します。

```
switch(config)# router isis 100
switch(config-router)# vrf management
switch(config-router-vrf)# wide-metric-only
```

次に、ワイドメトリックリンクのみの制限を削除する例を示します。

```
switch(config)# router isis 100
switch(config-router)# vrf management
switch(config-router-vrf)# no wide-metric-only
```

関連コマンド

コマンド	説明
exit	現在のコンフィギュレーション モードを終了します。
feature isis	ルータ上の IS-IS をイネーブルにします。
no	コマンドを無効にするか、またはデフォルト設定にします。
router isis	IS-IS をイネーブルにします。
vrf	VPN Routing and Forwarding instance (VRF) を作成するか、または VRF コンフィギュレーション モードに入ります。